

令和7(2025)年度 学校経営方針

I 学校教育目標

『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

- 自然・人・ものと出会い、ふれあいを深める中で、豊かな人間性を育みながら「生きて(知識)働く(知恵)力」をつける。そして、未来を切り開き、自信をもって進む子を育てる。
- グローバル化していく新しい時代に対応していくために、コミュニケーション能力を身につけ、外国語を話したり、高度情報化社会に向けてICTを活用したりして、意欲的に学び続ける子を育てる。
- 目標に向かって計画を立て、豊かな想像力を持ち、自分らしく生き生きと取り組み、主体的に課題追求し続ける子を育てる。

II めざす学校像

『一人ひとりの子どもが輝く学校』

- みんなの中で一人ひとりの子どもが、認められ、楽しく生き生きと安心して自分の力を発揮することができ、達成感・充実感が味わえる学校をめざす。

III めざす子ども像

- (1) 思いやりのある子
- (2) 自分を発揮できる子
- (3) 自分の思いを追い求める子
- (4) 対話をとおして人とつながる子
- (5) 新しい時代に対応していける子

- 自然・人・ものを大切にして、命の尊厳を感じられる子を育てる。
- 人の心の痛みがわかり、相手の立場で考えられる子を育てる。
- 感謝の気持ちが表現でき、理性をもった行動のできる子を育てる。
- 明るく生き生きと自分の力が出せる子を育てる。
- 目標に向け、果敢に挑戦し続ける子を育てる。
- 対話をとおして、主体的に人とかかわる子を育てる。
- 英語を話したり、ICTを活用したりして意欲的に学ぶ子を育てる。

IV めざす職員像

- (1) 一人ひとりの子どもの持つよさを見つけ、認め、引き出すことができる職員
- (2) 新たな時代の到来に対応し、教育を切り拓いていく職員
- (3) 保護者や地域との連携を大切にする職員
- (4) 心身の健康に気を配り、助け合って、働きやすい環境づくりのための改革ができる職員

- 子どもの様子やその背景等をよく見つめて実態を正確に把握し、輝くものを見つけて伸ばす。
- 一人ひとりの違いを認め、その子に合った課題を設定し、見通しを持って粘り強く指導する。
- 達成感を味わわせ意欲を持たせ、自己肯定感、自己有用感を持たせることができる。
- 子どもの発言や行動を尊重し、心を通わせる努力をする。
- 英語や特別な教科・道徳の実践およびICTを積極的に活用した授業に積極的に臨む。
- 人権感覚を磨き、自分の人間性を高め、差別的な発言や行動を見逃さない。
- つながる取り組みを行い、認め合えるなかまづくりを行う。

【学級、なかよし班、地区児童会など】

- 「地域の核」となる学校であり、地区の中で活かされている学校という意識を持って臨む。
- 積極的に地域行事にも参加するなど家庭や地域での子どもの様子等、広く情報収集を行い、要望・期待を把握し、その実現を図る。【夏祭り、明星祭、敬老会など】
- 日頃から保護者や地域とコミュニケーションをとり、親身になって思いを聞き、つながりを持つことで信頼関係を築く。
- 報告・連絡・相談を大切にし、情報を共有して、共通理解を図るとともに、チーム学校として組織的に、より良い対処方法や解決方法を探る。
- 児童の学校での様子を伝え、情報として発信・開示する。
- 衛生推進委員会を定期的に関き、勤務時間の縮減に努めるとともに、それぞれが働きやすい職場づくりに努める。

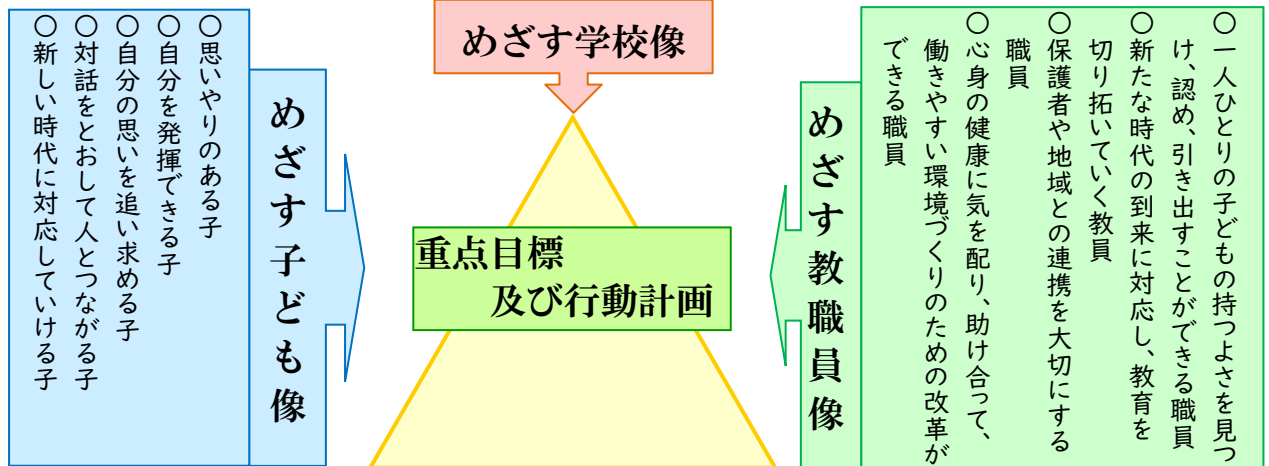
【令和7年度 白川小学校 学校経営方針と行動計画】

学校教育目標

『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

『一人ひとりの子どもが輝く学校』

○みんなの中で一人ひとりの子どもが、認められ、楽しく生き生きと安心して力を発揮することができ、達成感・充実感が味わえる学校



☆全ての子どもに基礎的な知識・技能を身につけさせ、主体的に学ぶ姿勢を育む。

- ① 学習のめあてを知り、見通しをもって友だちと話し合う中で学習を深める姿勢を育む。
- ② 書く活動を重視して、ふりかえりを大切に、次への学びを追究する姿勢を育む。
- ③ 「学習のやくそく」などをもとに学習準備を確実にし、学習規律の徹底を図る。
- ④ 学校図書館の利用など、読書活動を充実させる。
- ⑤ 「家庭学習の手引き」をもとに保護者と協働して、家庭学習の習慣を身につけさせる。
- ⑥ 英語を話したり、ICT を適切に活用したりする授業の充実を図る。

☆子どもに、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力をつけさせる。

- ① 子どもたちの実態を把握し、学習指導に活かす。
- ② 主体的・対話的で深い学びのある授業に努める。
- ③ 追究する学びをつくり出すために、研修テーマにそった授業改善を進める。

☆共に生きる大切さがわかる子を育て、豊かな人間性を養う。

- ① 対話をとおして、主体的に人とのかかわる子を育てる。
 - ② 体験学習・児童集会等で、子どもの創意を引き出し、達成感が味わえる活動を行う。
 - ③ 特別な教科道徳やすみかくタイム等で、心を揺さぶる活動場面やなかまとの関わりを高め合う場面を設定する。
 - ④ Q-U、なかまづくり、いじめ、体罰等アンケートを実施し、全体で交流し検証して指導にいかす。
 - ⑤ 食育、保健指導等を通して、児童の健康安全の意識を高める。
 - ⑥ 体力テストの検証や、KameyamaSportsWeek 等の活動を通して、児童の体力向上に努める。
 - ⑦ 豊かな自然・伝統ある校舎を大切に、学校環境を整備し、落ち着いて学べるよう努める。
- ※Q-U アンケート…学級づくりのためのアンケート

☆保護者・地域等との連携を大切にしながら、生きる力の基礎を育む。

- ① コミュニティスクールを通して保護者・地域・学校の連携を深める。
- ② 学校の取り組みや子どもの様子を保護者、地域の方に発信する。
- ③ 保護者や地域の方々の学校行事への参加を促し、学校経営の改善につなげる。

☆子どもが輝くために、教職員がやりがいを持ち一丸となって教育に取り組み、業務の効率化を進め、自らの力量向上に努める。

- ① 教職員満足度調査を実施し、その検証から改善活動に努める。
- ② 校内衛生委員会を中心に、勤務時間短減に努めるとともに、働きやすい職場づくりに努める。
- ③ ワーク・ライフバランスを大切にする。